

## 編集後記

<特集の編集を終えて>

\* 1996年12月の「建設技術特集号」に引続き、1999年9月には「橋梁・土木特集号」を発売し、主として、阪神・淡路大震災以降の研究開発成果を報告いたしました。本号は、それらの続編ともいえるべきもので、ここ3年間の成果を主体に編集したものです。

\* 我が国の建設分野は、バブル経済崩壊以降、コスト縮減が最大の課題となる一方、最近では、仕様規定型発注から性能規定型発注への移行が徐々に進展しつつあります。このような状況下、コスト面と性能面とを同時に満足するような新技術の研究開発が不可欠です。しかも、合成構造が脚光をあびつつある現在、メタル屋、コンクリート屋といった領域意識

を払拭しなければなりません。さらに昨今の複雑化している問題を解決するためには、幅広いジャンルの知識を相互活用することも不可欠です。

\* 本号では、鋼構造に加えて、合成構造に関する研究開発成果を多数掲載いたしました。分野としては、橋梁、砂防構造物、港湾・海岸構造物などです。

\* これからは我が国も、欧米諸国同様、メンテナンスの時代に突入します。今後の社会ニーズに応えていくためには、新設構造物のみでなく、補修・補強技術や、環境保全技術もますますその重要性を増してきます。このような観点から、橋梁補修工法や騒音公害への対処方法に関する記事も掲載いたしました。

(杉井謙一・中川知和)

## 次号予告

<エネルギー特集>

\* 我が国のエネルギー需要は1990年台バブル崩壊以降の景気の低迷にも拘わらず、ほぼ一貫して増加基調で推移してきました。

\* 一方、COP3の合意を踏まえて地球温暖化防止のため、エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量の増加を抑制し90年度と同水準にするという困難な目標にも挑むことが必要となっています。

\* 従って、エネルギー政策の基本として、新エネルギー、省エネルギー、電力などの燃料転換、天然ガスの導入などが積極的に行われてきており、技術開発の推進もますます重要な課題です。

\* このような供給面での取組みとともに、近年、電力・都市ガスのエネルギー産業の自由化・効率化が制度改革を通じて具体的に進展しており、電気事業については法の改正により、1995年に発電分野へIPP(独立発電事業者)制度が導入され、2000年3月より小売部分の自由化がなされました。

\* この最近の流れに対応して、次号はエ

ネルギー特集号を組み、当社のここ数年間の技術開発内容を報告する予定です。当社ではエネルギーに関する、材料・機械・プラントの製造・建設のみならず、発電所を初めとするエネルギー関連設備の運用などにも積極的に取り組んでおります。

\* 先ず、特集号では近年大きな注目を戴いております700MW×2ユニットの都市型石炭火力発電の神戸発電所について、様々な面から技術解説を行います。環境に対する配慮、近隣地区への熱供給の様子も紹介いたします。

\* またLNG分野では、LNG基地などで使用される気化器・高圧ALEX・大型ボールバルブやコジェネレーションの技術開発内容を、石炭分野では最新の褐炭利用技術などの報告を行います。

\* さらに、省エネルギー分野でのスーパーエコセンターや鉄鋼材料分野・溶接材料分野から特徴ある製品群の紹介も行いますので、是非ともご期待戴ければ幸いです。

(神保 淳)

## 編集委員

委員長	佐藤 廣士
副委員長	吉川 克之
委員	泉 博二
	江藤 武比古
	於久 英一
	上窪 文生
	小宮 幸久
	神保 淳一
	杉井 謙一
	中川 知和
	松 下 行 伸
	結 城 滋
	<五十音順>
本号特集編集委員	杉井 謙一
	中川 知和

## R&D / 神戸製鋼技報

第53巻・第1号(通巻第203号)

2003年4月1日発行

非売品 <禁無断転載>

発行人 佐藤 廣士

発行所 株式会社 神戸製鋼所  
コミュニケーションセンター  
〒651-8585  
神戸市中央区脇浜町2丁目10-26  
(神鋼ビル)

本誌はKOBELCO ホームページに全文を掲載しています。

<http://www.kobelco.co.jp/>

印刷所 福田印刷工業株式会社  
〒658-0026  
神戸市東灘区魚崎西町4丁目  
6番3号

お問合わせ先 神鋼リサーチ株式会社  
〒651-2271  
神戸市西区高塚台1丁目5-5  
(株)神戸製鋼所内  
TEL(078)992-9764  
FAX(078)992-9790  
m-tomita@rd.krcrl.kobelco.co.jp